



Title	リンパ増殖性疾患における白血病細胞の走査電顕的研究
Author(s)	井上, 良一
Citation	大阪大学, 1990, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/37439
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名・(本籍)	いの	うえ	りよう	いち
	井	上	良	一
学 位 の 種 類	医	学	博	士
学 位 記 番 号	第	9 4 1 6	号	
学位授与の日付	平 成 2 年	12 月	4 日	
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当			
学位論文題目	リンパ増殖性疾患における白血病細胞の走査電顕的研究			
論文審査委員	(主査)			
	教 授	木谷 照夫		
	(副査)			
	教 授	北村 幸彦	教 授	橋本 一成

論 文 内 容 の 要 旨

〔目 的〕

近年単クローン抗体の利用によりリンパ球の分化抗原が詳細に知られるようになり、リンパ増殖疾患の分類も更にくわしいものとなり、以前にはなかった新しい疾患概念も明らかにされつつある。これら各種の病型の腫瘍細胞を位相差顕微鏡（PCM）で観察しさらに走査電顕（SEM）で超微形態的に表面形状を観察、各病型の特徴を検索した。

〔方法ならびに成績〕

1. 対 象

Common acute lymphoblastic leukemia (cALL) 10例, T-acute lymphoblastic leukemia (T-ALL) 8例, Adult T cell leukemia (ATL) 21例, T-chronic lymphocytic leukemia (T-CLL) 7例, B-chronic lymphocytic leukemia (B-CLL) 14例, B-prolymphocytic leukemia (B-PLL) 6例, "Prolymphocytoid transformation" in B-CLL ("PL" transformation in B-CLL) 1例, Hairy cell leukemia (HCL) 21例, Hairy cell-like cell leukemia (HCLCL) 16例, Non Hodgkin's lymphoma in leukemic phase 2例, Waldenstroem's macroglobulinemia 2例, Plasma cell leukemia (PCL) 3例の111例である。

2. 方 法

患者末梢血よりヘパリン加採血しFicoll-Conray 比重遠沈法にてリンパ球層を分離しHanks' balanced saline solution (HBSS) にて3回洗浄した。まえもってシャーレ内に置いていた小さなガラス片にこの細胞浮遊液を滴下して、37℃15分間保ってこれに付着させ、それから37℃に加温した2.5%グルタルアルデヒドをシャーレに徐々に加え1時間固定後、型のごとく処理しSEMで観察する。無作為に100個の細胞を観察し写真撮影を行った。表面マーカーの検索は標準的な方法によった。

3. 結 果

cALL, T-ALLでは表面にmicrovilliを持たないか20個以下のmicrovilliを持つ例が多かった。ATLではmicrovilliが密なもの、疎なもの、その中間のものがあり表面マーカーとの関連はみられなかった。T-CLL 7例のうち6例はlarge granular lymphocyte (LGL)白血病であった。Leu11が陽性の症例ではlamellipodiaを持っていた。B-CLLでは短いmicrovilliを密にもつ例が多く、B-PLLではmicrovilliが疎なもの、stub like microvilliとfinger-like microvilliをもつ例が多かった。“PL” transformation in B-CLLではstub-like microvilliとfinger-like microvilliをもつ細胞が多い。HCLはleukopenicなものもnon-leukopenic例でもruffles with microvilliを有していた。HCLCLでは検索しえた組織型はintermediate lymphocytic (ILL) 5例でこのうち2例はmantle zone lymphoma (MZL)であった。いずれもHCLとは異なりruffles with microvilliは持たず、stub-like microvilli, finger-like microvilli, ridge-like profileをもつtypeが多かった。Non Hodgkin's lymphoma in leukemic phaseの2例では表面に全く突起を認めなかった。Waldenstroem's macroglobulinemiaではmicrovilliが密にあるもの、blebを有するものが見られた。PCLでは全例blebを有していた。

〔総 括〕

SEMを用いてリンパ増殖疾患の白血病細胞の表面構造を観察した。リンパ球の分化の段階で未分化な細胞は一般にsmoothであり、villiも少ない傾向にあった。T-CLLは症例数が少ないものの表面形質と同じく表面構造も多彩であったが、Leu 11⁺の腫瘍細胞ではlamellipodiaが見られた。B細胞性白血病では多様性にとんでいた。B-CLL細胞は通常密にmicrovilliを持つ。HCLはruffles with microvilliが特徴的である。近年HCLとの鑑別が問題となっている白血性の悪性リンパ腫ではsurface marker, 組織学的所見と共に表面構造もHCLとは異なっており、鑑別の有効な手段になると思われる。PLLや“PL” transformation in B-CLLもHCLとは表面構造は異なっていた。

Waldenstroem's macroglobulinemiaではPlasma cell leukemiaの細胞にみられるblebがみられ、B細胞終末分化のIg産生細胞の特徴と考えられた。分化、成熟した細胞は機能面からそれぞれ充分な特徴を発現するものと考えられるが、表面形状という面からみてもそれぞれ特徴を有し機

能相の一つの表現と考えられる。

論文審査の結果の要旨

各種のリンパ増殖性疾患患者111例の白血病細胞を培養液と共にガラス板上に37℃15分間保ってこれに付着させ、その状態で固定して走査電子顕微鏡で観察した。この方法を用いると浮遊状態で固定した時には見られなかった各病型に特徴的な表面形状を示すことが見いだされた。なかでも hairy cell leukemia に見られる ruffles with microvilli やCD16陽性LGL白血病に見られる lamellipodiaはこの病型に特異的で、この形態により容易に診断確定が可能となった。以上の成果は白血病病型の鑑別診断に寄与するところ大であり、学位論文に値するものとする。